

令和3年度第1回出雲市スポーツ振興審議会 議事録

1. 開催日時 令和3年5月20日(木) 9:45~11:10

2. 開催場所 出雲市役所4階 共済会議室

3. 出席者

(委員)

会長	成相 善美	(出雲市体育協会会長)
副会長	安喰 公美	(レクリエーションスポーツ代表)
委員	青木 敏章	(出雲市体育協会副会長)
	天根 佑介	(島根県立出雲養護学校教諭)
	大森 正義	(出雲市スポーツ少年団本部長)
	久家 彰	(出雲市生涯学習委員)
	佐々木由紀子	(出雲市スポーツ推進委員)
	水津 則義	(島根県高等学校体育連盟副会長)
	手銭 俊夫	(出雲市小学校体育連盟会長)
	野津 修一	(出雲市身障者福祉協会副会長)
	三島 武司	(出雲市教育委員会教育部長)
	矢田 栄子	(特定非営利活動法人出雲スポーツ振興21事務局長)

(12名)

※欠席者3名(萬代輝正委員、藤江勲委員、山根千恵美委員)

(事務局)

	飯塚 俊之	(出雲市長)
	三代 均	(市民文化部長)
	矢田 和則	(文化スポーツ課長)
	藤井 武	(文化スポーツ課スポーツ特別事業室長)
	今岡 正樹	(文化スポーツ課課長補佐)
	原 彩恵子	(文化スポーツ課スポーツ振興係副主任)
	小村 修平	(文化スポーツ課スポーツ振興係主事)

(7名)

4. 会議内容

(1) 飯塚市長挨拶

皆さんおはようございます。

出雲市長の飯塚俊之でございます。

ちょうど一か月前に市長に就任いたしまして、皆様方には、初めての方もいらっしゃるかと思います。どうかよろしく願い申し上げます。

本日は、出雲市スポーツ振興審議会ということで、皆様方には大変お忙しとごころお出かけいただきまして、誠にありがとうございます。

先週末には、聖火リレーが出雲市にも参りまして、出雲市では15名の方に、その聖火のリレーをつないでいただいたところです。

コロナの状況の中で、少しでも希望が見えるような、そのような思いをランナーの皆様伝えていただき、これが新しい国立競技場の聖火の大きな光となって、この地域、日本、そして世界の平和とか、コロナを克服するような希望の灯となってもらいたいと願うところであります。

また、私もこの前まで議会に出かけさせていただいておりました、スポーツ推進協議会の会長を務めさせていただきました。その中で、スポーツ振興のことについて、現地に出かけたり、いろいろな方のお話を聞く中で、取り組んできたところではあります。

今、こうして立場が変わりましたが、これからもしっかりとスポーツ振興に努めてまいりたいと思っております。

そうした中で、これまで皆様方から、平成28年5月に答申いただいた出雲市スポーツ振興計画によって、これまで出雲市のスポーツ振興が図られてきたところですが、このたびこの5年を経過いたしまして、新しいスポーツ推進計画を策定することになりました。

今、社会の多様化、様々な時代の要請、そしてこのコロナの拡大がある中で、そのような変化も十分に受け入れていただきながらも、この出雲市のスポーツ振興をどのようにしていくのか、いかに発展させるのかということもぜひ受け入れていただき、誰もが明るく元気に活躍できる出雲市、また、子どもたちが希望を持てる出雲市になりますよう、御審議いただきますことをお願い申し上げます。

そして、当計画により、令和6年度の初めを目指して、新体育館の建設ということも進めているところです。しっかりと進捗管理をしながら、また、次の計画の中にも生かしていただきたいと思っておりますけれども、やはりソフト面の充実というものを、どうやって活かしていくかという視点も、これから必要になってくると思っております。

そういうことも含めて、皆様方に大変なお願いをするわけではございますが、どうか充実した議論をしていただきまして、スポーツ振興に寄与していただきまして、御挨拶とさせていただきます。

(2) 成相会長挨拶

皆さんおはようございます。新市長に御挨拶いただきましてありがとうございます。

今、こうやって日々コロナで大変なことになってはいますが、昨日も出雲で出たということで、本当にいろいろなことが慎重に、また気持ちの面でも委縮してしまうということがございますが、我々はこれから先の、先ほど市長がお話されましたように、子どもたちが夢を描けるような、市民の皆さんが元気になって、ますます出雲が発展してくるような形に、夢を描けるような出雲になるように、しっかりと前向きに、スポーツを通して元気になっていただけるようなことをしっかりと考えていきたいと思っております。

とかく、コロナによって、本当にいろいろなことがコロナコロナとなっておりますが、コロナによってまたいろいろな考え方や新しい考え方が生まれてきて、いろいろやり方でいろいろな分野の競技も行われてきています。

4月には陸上大会も開かれましたし、カミアリーナでは、剣道大会も開かれました。出雲ドームを使って、ゲートボールの大きな大会が開かれました。関係者の方が大変な努力をされて、この大会をされたと思っております。

いろいろなやり方をしていながら、選手の皆さんや、我々みんな応援して

いきながら、明るい出雲になっていけたらいいなと思っています。

皆さんの忌憚^{きたん}ない御意見をいただきながらしっかり考えていきたいと思いま
すので、どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 諮問書の交付

飯塚市長から成相会長に諮問

※諮問後飯塚市長は他用務のため退席

(4) 議事

議事① 次期出雲市スポーツ推進計画策定スケジュールについて

(成相会長)

議事①について、文化スポーツ課から説明をお願いいたします。

(事務局：今岡補佐)

次期計画策定に向けてのスケジュール（案）（資料1）について説明

(成相会長)

ありがとうございました。先ほど事務局から説明がございましたが、皆様から何
か質問がございますでしょうか。

—質疑なし—

議事② アンケート結果検証について（意見交換）

(成相会長)

では、続きまして、事前にお配りしている、アンケート調査結果について文化ス
ポーツ課から説明をお願いいたします。

(事務局：今岡補佐)

アンケート集計結果のポイント及びアンケート調査結果（資料2）について説明

(成相会長)

ありがとうございました。皆さん御意見又は質問等ありましたら挙手のうえ、お
願いいたします。

(三島委員)

一般市民の現状に関するアンケートですが、一番最初の年齢分布を見させていた
だくと、60歳代以上の方が約半数ということで、50歳代を含めると3分の2が比
較的高齢な方の意見ということです。こういった方の御意見は尊重しなければいけ
ないと思いますが、量的な分析をするとどうしても30歳代、20歳代、10歳代、こ
れが全体の2割に満たないような形になりますので、少しこの中でも補正して、例
えば75ページの実施している種目、ウォーキングが圧倒的ですがけれども、この年
齢分布をみると、これもさもありなんという感じでありますので、これはこれとし
て、量的な分析はいいのですが、若い方の御意見について、少し抜き出して検討し
ていただくほうがいいのかなと感じました。

(青木委員)

関連すると思いますが、諮問の中にも、価値観の多様化とか、そういうことがあって、それから全体を見て、スポーツに対する人々の考え、志向するものがすごく違うなということを感じておりました。

89 ページや 90 ページ以降に、一般市民の方がスポーツ振興に重要なこととか、効果を見たときに、先ほどの意見のとおり、年齢によってということがあるかもしれないですが、効果、期待するものは「地域コミュニティの形成・活性化」、「市民の健康増進」、重要なことが、「既存施設の整備・有効活用」、「スポーツ人口拡大のための積極的な取り組み」ということですが、基本計画というのは、最終的に何年後にどういう出雲の姿、市民がどういう姿を求めているのか。出雲はしょっちゅうプロのチームが来てやっているような、そういう出雲がいいと思っている小学生がいっぱいいます。それから、やりたいスポーツがどこでもできる、いつでもできる、そう考えている若い人達もいます。

そういう風に考えると、この結果で、効果は健康増進だ、健康増進なら具体的に何年後にどういう姿だったら健康増進が達成できたのかというのが、なかなかイメージがわからない。

まず、未来、どんな姿で、誰もがアンケートを取ったらこういう結果が出るとか、実際に具体的にこういう検証だということを、イメージし直すということ、ゴールを定めておいて、そのために、焦点化して持っていくということが必要じゃないかと、そのために、各種学校は何するか、スポーツ少年団をどうするか、何をどうするかということを考えていくことが必要ではないかと、具体的ではないですが、そのようなことを感じています。

(矢田委員)

全く今の御意見に同感でございます、これを細かく見ていくと、それぞれの団体でまず解決してもらわないといけないなということもありますが、人口が少し減ってきてたり、年齢構成が偏ってきてたり、まさに生活の多様化というのがあるって、コミュニケーションも多様化している中で、今の仕組み、体育協会であったり、スポーツ少年団だったり、そういったことも一回0にするくらいの気持ちで、これからどうしていくか、どういうさなかで進んでいくか、それは住民の中で、出雲の中でスポーツや文化、その他いろいろなところの中の一つのまちづくりとして、このスポーツが一体どういう形で進んでいくべきか、そういう視点から考えていくことが重要ではないかなと思います。

(安喰副会長)

8 ページの種目を見ていた時に、前回調査していないですが、今回調査したところにダンスが入っています。具体的なことですけれども、こういうことはどうなのかと思ったり、前回と今回と狙いはどうだったのか、やはりそのところ、先ほどから出ております。

じゃあ私たちは出雲市のスポーツという望むところの像とはどういうスポーツ像なのか、というのが具体的に見えてなかったなということを思いました。

そのところを、私たちは、もう少し見直すべきじゃないかとか、いろいろな分野の方がいらっしゃるので、その分野から意見を出し合いながら、どんどん進んでいって、出雲市のスポーツ像というのはどうなのかということが、出てきたらいいなというようなことを思います。

(久家委員)

ダンスの話もありましたが、ダンスは中学校で必修科目になりますと、今の中学生にそういう希望が出てきます。

今いろいろ話がありましたが、出雲のスポーツのブランドは何の種目があるか、子どものころから、小学校中学校あるいは一般含めても一貫性、つながりがない種目がいろいろあります。横田のホッケーだとか、安来のフェンシングとか、町全体がそのスポーツをしています。出雲も種目別にはありますが、高校が優秀だったり、中学校が優秀だったり、そういう一貫性がないような形があり、そういうのを含めて、どういう形にするか。

これから子どもたちがどんどん減ってくる傾向にあります。30年の全国スポーツ大会のころにはずっと減少すると思うので、そういうことも含めて考えていく必要があるのではないかと考えています。調査の中で、スポーツ少年団で長らくいろいろな役員をさせていただいていますが、実際、島根県のスポーツ少年団の半数以上が出雲市のスポーツ少年団です。松江とか浜田のほうは少なくなりますし、そういうことも含めて、全体として長い目で考える必要があると思います。

(大森委員)

正直、団員数が減ってきていまして、それによって、退団をされるところが毎年出てきております。他のチームと合同チームを作って、引き続いてやっているチームもありますが、全く活動を停止してしまったというところもあります。

アンケートの中に、練習が楽しくないという項目がかなりの割合を占めているのが、残念だなと思います。スポーツ少年団の活動が、勝つことに重きを置いているか、スポーツを楽しもうというところに重きを置いているか、二つあると思います。その辺ももう少し考えていかなければいけないと思いますし、統一性がないという意見もありますが、学校教育とスポーツ少年団活動は社会活動になりますので、なかなか一緒にとすることはできないかもしれませんが、スポーツ少年団は体育協会の一員でありますので、体育協会の方に御指導をいただいたり、役員構成の中にも体育協会の方に入らせていただいて、部外からの意見を出していただいたりして、活性化していかなければいけないのではないのかなと思います。計画を策定する中で、またいろいろとお話させていただきたいなと思います。

(天根委員)

様々な御意見やアンケートの結果を聞かせていただいて、スポーツ少年団であったり、健常者の方の中でも様々な課題があったり事例があったりという中で、障がいを持つ子たちが、気軽に使えたり、参加をしたりというのが少し難しいのかなという印象を持って聞かせていただきました。しかし、障がいがあってもなくても、スポーツ、運動というのは学校の中でも、体育の活動でとても良い表情が見られたり、座学が難しくても、運動を通して友達と楽しくコミュニケーションを取れたり、素敵な姿が見られたりということが多く見られます。

ですが、障がいを持つお子さんの保護者の方々は、自分の子どもたちがなかなかそういう大会に参加できなかったり、輝く姿が見られなかったりというところで、寂しさがある現状を学校の中でも感じます。

私は前任校では松江清心養護学校の肢体不自由の学校にいたのですが、その中で、47 ページ等にあるような、「障がい者スポーツ活動推進に向けた取組について」で取り組みを行っている団体が2団体あり、ボッチャ体験等とありますが、カミアリ

ーナで、ボッチャ大会の県大会を開いていただいたところでは、こういう大きな場で、自分の子がこういう風に活動している姿を見られるなんて思ってもみなかったということをしごく感動しておられる保護者の方もおられました。身体障がい、知的障がい、様々な障がいがありますが、それに関わらず、気軽に、障がいを持つ子たちも健常者の方々と一緒に参加できるような活動が増えていたり、そういう施設が増えていたりすると、学校内では体育等の活動で体を動かす機会がありますが、どの学校としても課題であるのが、卒業した後、社会に出た後に、子どもたちが体を動かす場がなくなったり、生涯スポーツに参加する機会がなくなったりということをしごく聞いています。参加できている子たちもいますが、そういう活動を市の中でも考えていただくと、今後の活動としても、子どもたちとしても、ありがたいなと思います。

(手銭委員)

小学校の立場で、子どもたちが将来にわたってスポーツを愛する、そして出雲市で輝くということを願うならば、先ほどあったように、将来の出雲市のスポーツ未来像、ゴールが定まっているといいなと思っております。

というのも、持続可能な社会というのが叫ばれておまして、SDG sの中にも、今この場限りの施策ではなく、未来につながる形が求められているのではないかと思います。今現状を見ると、子どもの人口が減って、指導者が高齢化していくと、おのずとその将来は消滅していくと。例えば、スポ少だったら、人数が少ないスポ少、指導者が1人2人のスポ少は、やがてなくなるだろうなと思います。子どもたちは、たぶん自分の愛好する興味関心のあるスポーツの練習の場所、あるいは指導者が充実しているところだったら行きたいと思っているだろうと思います。それから、チームで昔ながらの対戦するような団体構成の試合形式のものは、なかなか将来が厳しいなと思っております。

私は陸上競技に携わっているのですが、非常に個人型で、浜山競技場という場所があって、指導者がいっぱいいますので、毎年入れてくださいという保護者さんが結構いらっちゃって、人数が年々、募集もさほどかけていないですが、口コミで結構広がっていて、今ストップをかけているくらいです。個人型で、チーム、集団ではなくて、選手、競技力第一のそういう形じゃないにしても、緩いいろんな運動に親しむというようなことでやっているのと、人数も結構集まってくるという形ですので、チームとかそういうものを維持していくのであれば、本当は、統合とか、地域を跨いで一緒にしていくような音頭を取っていたりしながら、ただ団体は単独でやりたいという意見はしごくお持ちです。そのほうが試合に出られるからとおっしゃられます。だけど、後々そこは、なかなか続けにくい現状があるのではないかと思っております。どこかで、中学校ではすでに何中と何中は一緒になって野球のチームをやってみようとか、やっていますが、持続可能なスポーツのチーム、団体が、維持できるような何か手だてがないと、なかなか難しいなとアンケートを見ながら感じました。

(水津委員)

委員の皆さんのいろいろな意見をいただいて、出雲市のスポーツ振興という観点から見たときに、どこをゴールにという話があったかと思いますが、高等学校のスポーツは、それぞれ体育系の部活動があって、競技スポーツとしての部活動がほとんどですので、どうしてもそうすると、選手の技術力の向上であったり、そういう

ところが主体となるのですが、学校教育、学校体育全般を考えると、子どもたちの社会性の育成であったりということがあったと思います。この中で高等学校の場合は、高校卒業した後に、どれだけスポーツを継続して、他のスポーツを何か始めたかということがあるかということ、実は案外少なく、高校の段階でそのスポーツが完結してしまっている子どもたちが実は多いのではないかなと思っております。

そんな観点を持ちながらこの資料を見させていただいたのですが、この資料を見ていて、なるほどと思ったのは、9ページの「中学生の進学後にやりたいスポーツ」というのがあって、1番がバドミントンとか、バスケットボール、ダンス、バレーボール、ソフトテニスとかありますが、バドミントン、ダンスとか卓球も中学校から続けたいという子が比較的多い割合のスポーツなんですけど、案外指導者が今少なく、結構、競技経験のない先生がダンスの指導をしているケースもあって、なかなか子どもたちのやってみたいスポーツと、実際、指導者の競技が全然違うなというところがあります。

勤務している学校にダンス同好会があるのですが、結構な数の女子生徒たちが入って、もちろんダンスの経験のある指導者はいないので、ダンスには不向きなのですがという顧問が見ていますが、子どもたちが、本当に毎日主体的に、誰からも強制されることなく、自分たちで体を動かして楽しそうにやっている、これも新しいスポーツの形なのかなと見ております。良い意見は言えないのですが、そのようなことを感じていますので、また会の中で皆様方の意見を聞きながら、スポーツという観点を取り入れていきたいと思っております。

（佐々木委員）

アンケートに関する感想ではないかもしれませんが、ボランティアで小学校の読書とか引率のボランティアをすることがあって、その時子どもたちが話しているのが、TikTokをやっているという話があって、いいねが何個だとか、フォロワーが何人だとか話をしていて驚いて、校長先生にお話ししたら、メディアからどう子どもたちを離すのかというのが学校の課題ですという話を聞いて、この小学生たちのアンケートは一部かもしれませんが、本当に多様な興味に、子どもたちは運動する機会もなく、コロナもあります、機会が減ってるのもあって、どうスポーツ推進委員として関わったらいいかなというのは非常に考えていますし、スポーツ推進委員自体も高齢化していて、そういう高齢化という時代にどう受け継いでいけばいいのかということも非常に今考えていることです。

（野津委員）

いろいろ聞いていて、すごい選手を育てる、これも一理ある。野球とかで知名度があるスポーツ。もう一面は、自分が楽しんでやる、これも当然ある面だと思います。この二つをどう組み合わせっていくのかということもあるので、何かに秀でた人もどこかにいると思うんです。それを伸ばしていくのも当然やらないといけない。ところが全員それに当てはめられるかということとまた違う。そういう二面性というか多様性を持った仕組みができればと思います。

（青木委員）

最初お話ししたことと関連しますが、皆さんの意見を聞いていろいろ思ったのですが、アンケート結果の中で、最初に三島委員さんがおっしゃった若い世代をピックアップするという話がありましたが、将来の像を作るに当たって、小中学生と 20

代、30代、高校生あたりがどう考えているか、この人たちが自分たちの未来の出雲をどう作るかという、そういうところを入れたような基本計画を作っていくことが必要かなという気がして、聞いていました。

(成相会長)

そうですね。若い人たちがある程度自分たちで考えていくということも、ものすごく大事なことだと思います。我々だけではなくて、そういった意見をどんどん吸い上げて、将来像が描けるようなものができていったらいいなと思います。アンケートの検証結果についてということでもいろいろと御意見をいただきまして、本当にいろいろな御意見があって、しっかりとまた皆さんと考えてやっていきたいなと思います。

それでは、これで、事務局にお返ししたいと思います。

(事務局：今岡補佐)

貴重な御意見大変ありがとうございました。一般市民へのアンケートについては、年代ごとに仕分けた調査結果をお出しすることもできますので、その方向で検討して、次回お出しできればと考えています。

また、今後帰られてから、お気づきの点がございましたら、FAX等で結構ですので、御意見をいただけたらと思っております。

(5) その他

(事務局：矢田課長)

貴重な御意見ありがとうございました。

その他の事項でございますが、出雲市新体育館の関連について、担当より説明いたします。

(事務局：藤井室長)

資料3に基づき説明

(事務局：矢田課長)

以上、新体育館の状況について御説明をさせていただきましたが、皆様方から何かありますか。

(矢田委員)

利用料金はいつ頃決まりますか。

(事務局：矢田課長)

今後、基本、実施設計が始まり、諸室が確定した段階で、利用料金を決めたいと考えています。まだもう少し先になります。

(矢田委員)

よくいつ頃料金が決まるのかと団体さんから聞かれるので、またわかったら教えてください。

(事務局：矢田課長)

体育館につきましては、委員の皆様には基本計画策定のおり御意見をいただいたものを、要求水準書といった事業企画をするところにも細かく入れさせていただいて、このたび提案を受けて、いよいよ実現化するということになっておりますので、またこういった進捗状況はホームページ等を使いながら市民の皆様にも広く広報していきながら進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

続きまして、第 84 回国民スポーツ大会及び第 29 回全国障害者スポーツ大会の状況について御説明をさせていただきます。

(事務局：今岡補佐)

資料 4 に基づき説明

(事務局：矢田課長)

以上、用意させていただいた内容は以上でございますが、何か御意見、御質問等ございましたらお受けさせていただきます。

(野津委員)

新体育館のことですが、顔認証システムですが、イメージとしては、カメラの前に顔を持ってくるものですか。子どもは対応できますか。というのも、病院に行くとき、体温を測るのですが、車いすだと立たないと測れないのです。顔認証も全身が映るようなものであれば問題ないですが、車いすだったら立たないといけない、小さい子どもも抱えないといけないと、そのあたりも検討していただければと思います。

(矢田委員)

アンケートにもありましたが、施設によって予約の仕方とか料金の取り方が違ったという御意見があって、新しい体育館でもすごく最新の WEB で完了と、そうすると、また統一化してくださいという市民の声が出るのではないかと思います。管理者側からいうと、スポーツ施設条例があって、都市公園条例があって、健康公園とサンアビはまたいろいろと違って、その他もある、となると、予約のできる時期も違うし、還付に関する考え方も違いがあって、もし建設のオープンまでに時間があるのであれば、都市公園は還付の考え方そのものがないので、本来は予約されたら還付しない、キャンセルは受け付けない、そういうのもあるし、そのところを整理していただければ、新体育館そのものではありませんが、市民の皆さんも使いやすく、御理解いただきやすいのかなと思いますので、御検討いただければと思います。

(事務局：矢田課長)

民間が建てて、民間の維持管理ではありますが、方法としては指定管理という形で、通常指定管理は 5 年間をお願いしておりますが、今回の新体育館については、PFI 手法ということで、指定管理の期間は通常より長い 15 年間ではありますが、市の施設ということには変わりませんので、周辺施設との連携ということも事業者にはうたっているもので、そういったことも状況を見ながら進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。貴重な御意見ありがとうございました。

それでは、以上で終了となりますが、次回開催は 7 月を予定しております。 6

月のところで日程調整をさせていただくと思いますので、御協力をよろしくお願
いいたします。

それでは、長時間にわたり御審議いただきありがとうございました。

以上をもちまして、第1回出雲市スポーツ振興審議会を終了いたします。

本日は本当にありがとうございました。